

## 平成 29 年度事業報告について

平成 29 年度は、第 9 回神戸国際フルートコンクールを核とする神戸国際フルート音楽祭が開催され、また港都 KOBE 芸術祭を筆頭に神戸開港 150 年記念事業が数多く展開されるなど、神戸市内で大規模な文化事業が数多く実施された年度であった。当財団においては、神戸アートビレッジセンターの指定管理を開始したほか、単独事業者として神戸文化ホールの指定管理を任される第 4 期指定管理期間がスタートするなど、事業環境にも大きな変化があったが、主要事業である文化振興事業、演奏事業、神戸文化ホール事業、神戸アートビレッジセンター事業、区民センター事業の各事業について、市民や経済界等と幅広く連携し、着実に取り組んだ。

### (1) 神戸アートビレッジセンターの指定管理開始

運営方針の一つである若手アーティストがチャレンジできる劇場として、夏休み期間を中心に高校生を対象とした演劇ワークショップを行ったほか、美術事業では、若手芸術家を公募で選び、スタッフと作家が一緒になって制作する展覧会を開催した。このほか映像事業では、アート系シアターとして大手映画館では上映されない芸術的価値の高い映画を選定し、定期的に新作上映を行うなど、神戸らしい文化芸術の創造・発信拠点としての機能強化を図った。

### (2) 第 9 回神戸国際フルートコンクール

4 年に 1 度の世界的コンクールである「神戸国際フルートコンクール」を実施した。第 9 回目となるコンクールは、市民・企業そして行政が連携し、神戸国際フルート音楽祭の核として開催することで、多くの方に来場いただくとともに、「フルートのまち神戸」の発信、並びに芸術文化による神戸ブランドの発信に寄与した。

### (3) 神戸室内合奏団 CLASSIC PLUS

神戸出身の新進気鋭の音楽家鈴木優人を指揮に迎え、神戸市室内合奏団が実施する 3 年間のプロジェクト「CLASSIC PLUS」。神戸タータンやスイーツとコラボレーションした特別演奏会を開催したほか、演奏会のプログラムと連携した公開講座、大丸神戸店や元町商店街でのまちなかコンサート、市内高校へのアウトリーチなど多彩な企画に取り組んだ。

### (4) 「Robert Frank: Books and Films 1947-2017」(ロバート・フランク展)

ストリート・フォトグラフィの創始者として著名な写真家ロバート・フランクと、世界一美しい本をつくるドイツの出版人と言われるゲルハルト・シュタイデルが考案した国際巡回展を、デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) で実施した。企画及び運営にあたり、外部のキュレーターや KIITO スタッフ、地域のボランティア・学生など幅広いネットワークを構築するとともに広報等で工夫することで、多くの方に来場いただき、また来場者の満足度の高いイベントとなった。

### (5) ダンス×文学シリーズ Vol.1 Macbeth マクベス

ヨーロッパの公立劇場の芸術監督として高い評価を得ている、神戸出身の森優貴とコンテンポラリーダンス作品を企画製作し、神戸文化ホールで公演を行った。また、公演に先立ちワークショップやトークショーを開催し、一般に馴染みの薄いコンテンポラリーダンスを有名なシェイクスピア戯曲「マクベス」を題材にした「ダンス×文学シリーズ」として発表することで親しみが持てるよう工夫を凝らすなど、公演を通して創造発信力を高め、新たな観客を開拓することができた。

## 2 事業の実施状況

### 公益目的事業

#### 1 文化振興事業

##### (1) 事業方針

- ① 市民文化の向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供
- ② 芸術文化による神戸ブランドの創造発信
- ③ 市民参加型芸術文化事業の充実
- ④ 地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援
- ⑤ 情報収集・提供の充実（多様な芸術文化の紹介）
- ⑥ 芸術文化を担う人材の育成

##### (2) 事業内容

###### ①市民の文化の向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供

市民に感動を与え、感性や創造性を育む質の高い芸術文化の鑑賞機会として、世界的コンクールである「第9回神戸国際フルーツコンクール」を開催した。また、病院等においてプロのアーティストによるアートプログラムに触れる機会を創出し、ホールに来ることが困難な人に対する鑑賞機会の提供を図った。

###### ②芸術文化による神戸ブランドの創造発信

神戸国際フルーツ音楽祭や、港都 KOBE 芸術祭等の大規模な芸術文化事業と連携したプログラムを数多く展開したほか、世界的に著名な写真家の国際巡回展「ロバート・フランク展」を開催するなど、芸術文化事業による神戸ブランドの創造発信を行った。また、「ジャズの街神戸」推進協議会の事業では、中学・高校生による「神戸ユースジャズオーケストラ」の活動を推進するとともに、ラジオ番組「KOBE JAZZ-PHONIC RADIO」の放送や、「KOBE JAZZ DAY 2017」を開催した。

###### ③市民参加型芸術文化事業の充実

公演等の鑑賞だけでなく、市民が芸術文化活動を発表する機会や場を創出するため、「60歳からのデビュー・あなたにシャンソンを」や「こうべ市民美術展」などの市民参加型事業を展開した。

###### ④地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援

神戸文化の基盤となっている地元芸術文化団体の活動を支援するとともに、協力関係の強化を図った。また、「神戸市吹奏楽祭」、「JAPAN STUDENT JAZZ FESTIVAL」等を通じて、今後の神戸文化の担い手となる若手人材の育成を支援した。

###### ⑤情報収集・提供の充実

多種多様な芸術文化活動を広く紹介するため「KOBE C 情報」を発行するとともに、フルーツコンクールにおいて、初めてライブストリーミングを活用するなど、多様な手法を用いて情報発信機能の強化を図った。

###### ⑥芸術文化を担う人材の育成

各種事業を通じて、アートマネジメント能力の深化や向上を図るとともに、フルーツコンクールやロバート・フランク展等で、市民及び学生のボランティアスタッフを活用するなど「担い手」の養成・機会確保に努めた。

## 2 演奏事業

### (1) 事業方針

- ①神戸市民の文化的な財産として、文化ホールを拠点として区民ホールなど市民の身近な場所で質の高い演奏を提供する。
- ②演奏を一層洗練されたものとし、音楽芸術の発展に寄与する。
- ③広報強化による神戸市室内合奏団・神戸市混声合唱団の周知を図るとともに、魅力的な公演を行うことで主催公演だけでなく依頼公演の増加を図る。

### (2) 事業内容

#### ①神戸市室内合奏団

国内外で活躍する指揮者・ソリストをゲストとして招聘し、演奏会の充実を図った。特に、定期演奏会では「ヴィーン古典派からの視座」をシーズンテーマに、鈴木秀美、郷古廉といった魅力的なゲストとともに公演した。

また、(一財)地域創造から助成を受け実施した「CLASSIC PLUS」では、指揮者に鈴木優人、ソリストにコントラバス奏者の幣隆太朗といった神戸ゆかりの演奏者を招聘し、さらに神戸タータンやスイーツとコラボレーションした特別演奏会を行ったほか、公開講座やまちなかコンサートなどを開催した。

#### ②神戸市混声合唱団

神戸市混声合唱団では、10月に松原千振が音楽監督に就任した。

秋の定期演奏会で、神戸開港 150 年に合わせ姉妹合唱団提携を結んでいる世界的合唱団「リガ市室内合唱団アヴェ・ソル」の指揮者アンドリス・ヴェイスマニスを招聘し、松原千振と2人の指揮者による演奏会を実施。春の定期演奏会では、神戸が生んだ幻の作曲家「大澤壽人」にスポットをあて、指揮に岩村力を迎え、ピアノ伴奏版による世界初演曲等を演奏した。

#### ③両団周知の取り組み

世界のトップフルーティストと共演した神戸国際フルートコンクールの演奏では関係者から高い評価を得た。また、神戸市会の議場における演奏会のほか、神戸開港 150 周年記念式典や第 100 回(最終回)いずみホールランチタイムコンサートに出演するなど、新たな依頼公演の拡大と両団の魅力発信に努め、平成 28 年度の 121 公演を大きく上回る 148 公演に出演した。

項目	自主公演 (講座等含む)	依頼公演	合計
公演数	65 公演	83 公演	148 公演
入場者数	18,373 人	34,530 人	52,903 人

### 3 神戸文化ホール公演事業

#### (1) 方針

- ①文化ホールを拠点とした芸術創造発信事業の積極的展開
- ②優れた舞台芸術の鑑賞機会の提供及び鑑賞教室や解説セミナー等の実施  
※「創る(創造・発信)」、「育つ(教育普及)」、「観る(鑑賞)」が循環する事業展開
- ③財団のネットワークを活用した市民、芸術家、文化団体等との交流・連携事業の実施

#### (2) 事業内容

##### ①芸術創造・発信事業

神戸市文化奨励賞受賞者で、ドイツのレーゲンスブルク歌劇場ダンスカンパニーの芸術監督である森優貴を招き「ダンス×文学シリーズ」を新たに立ち上げ、シェイクスピアの「Macbeth マクベス」を題材としたコンテンポラリーダンスを企画上演した。また、一昨年から継続して取り組んでいる「公共ホール現代ダンス活性化事業」では小学校へのアウトリーチや市民参加型のワークショップを実施し、芸術創造活動の裾野を広げながら、「ダンス×文学シリーズ」第二弾の企画上演に繋がった。

さらに神戸国際フルートコンクールの第6回優勝者 小山裕幾（フィンランド放送交響楽団首席奏者）のリサイタルを開催しフルートコンクールの浸透にも努めるとともに、ロビーコンサートを通して、文化の担い手である若手芸術家に発表の機会を提供し、文化拠点としての機能充実に努めた。

##### ②教育普及・育成事業

能、狂言、歌舞伎の鑑賞教室や解説セミナーを実施して、世界に誇る伝統芸能を学ぶ機会を提供した。国内外で活躍する一流の演奏家から直接レクチャーを受けることができるワークショップやマスタークラスを開催し、若手芸術家の育成に取り組んだ。

また、市内の小学6年生を招待する劇団四季「こころの劇場」の継続実施したほか、新たに小学4年生を対象とした神戸文化ホールインリーチ並びに市内の小学校・幼稚園・保育園に対して演奏家が出向くアウトリーチを展開し、文化・芸術の普及に貢献した。

##### ③鑑賞・学習事業

NHK 交響楽団やウィーン少年合唱団など多くの人たちに知られる優れた舞台芸術公演のほか、「東西落語名人選」や「松竹大歌舞伎（中村橋之助改め八代目中村芝翫襲名披露／一谷嫩軍記 熊谷陣屋）」など開館当時から続く伝統的な公演を継続するとともに、映画事業「文化ホールキネマ」のプログラム選定に特性を反映させることで新たな観客の開拓にも努めた。

#### (3) 実績

##### 〈事業別〉

	事業数	公演数	入場者数
芸術創造・発信事業	33	51	19,125
教育普及・育成事業	15	29	22,649
鑑賞・学習事業	17	38	30,171
合計	65	118	71,945

〈部門別〉

	事業数	公演数	入場者数	備 考
音 楽	27	39	38,639	クラシック18(オペラ1) ジャズ1 ポピュラー7 邦楽1
舞 踊	4	5	4,699	バレエ1 ダンス3
演 劇	4	12	18,142	能1 歌舞伎2 ミュージカル1
演 芸	18	42	8,850	落語12 映画6
その他	12	20	1,615	トークショー1、映画×演奏1、セミナー6(能5、狂言1) ワークショップ(クラシック2、ダンス2) アウトリーチ(ダンス1)
合 計	65	118	71,945	

## 4 神戸文化ホール貸館・管理事業

### (1) 事業方針

- ①弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供
- ②施設利用者、来館者のご意見を反映したホール運営
- ③文化の発信拠点として地元芸術団体・若手アーティストを支援
- ④基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

### (2) 事業内容

#### ①弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供

年中無休、早朝仕込み・深夜撤収など、利用者ニーズに応じた弾力的な運用を継続実施した。

また、体制を強化した舞台スタッフによる専門性の高い舞台表現に対するアドバイスと舞台運営、ホスピタリティ溢れるホール運営で利用者をサポートした。

#### ②施設利用者、来館者のご意見を反映したホール運営

利用後のアンケート調査や「お客様の声 BOX」でお寄せいただいたご意見・ご要望を基に、ホール運営全般の改善に努めた。具体的には、オペレーターを増員して、チケット電話予約への迅速な対応を行った。

#### ③文化の発信拠点として地元芸術団体・若手アーティストを支援

抽選会における優先利用制度や練習利用の割引料金制度による地元芸術団体、若手芸術家の活動支援を継続して実施した。

また、若手芸術家の発表及び交流の場としての大ホールのロビー活用を継続した。

#### ④基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

ホール全般にわたる日常的な点検の実施、不良箇所への速やかな対処に努め、市の公共基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営を行うとともに、市と連携して、屋上防水工事の実施やトイレ改修に向けた準備など老朽化した施設・設備の改修に取り組んだ。

### (3) 貸館・管理事業実績

		大ホール	中ホール	練習場	合計
利用件数(件)		298	267	3,436	4,001
入場者数(人)		358,792	130,062	61,760	550,614
利用率 (%)	踏入率	94.4	94.2	97.0	
	実利用率	83.8	85.1	83.7	

(※収益事業による利用を含む)

## 5 神戸アートビレッジセンター (KAVC) 事業

### (1) 事業方針

- ①先進的・実験性のある事業の実施
- ②アートの世界への入り口となるワークショップや講座等の実施
- ③市内外の文化施設・教育機関等との交流・連携事業の実施
- ④まちの賑わい及び活性化に寄与する事業の実施

### (2) 事業内容

#### ①演劇・舞踊事業

高校生対象の演劇ワークショップ「Go! Go! High School Project 2017」や、その卒業生によって構成される劇団エクステの定期公演を、実施したほか、日本の現代舞踊のアーカイブの重要性を探求するダンスアーカイブプロジェクト作品を上演した。また、コンテンポラリーダンスのメソッドを知り、表現する楽しさを体験するワークショップをシリーズで行った。

#### ②美術事業

30歳未満の若手美術作家を支援する公募企画「1floor (ワン・フロア)」は、大前春菜、菊池和晃、澤田華の3人が選ばれ、当センター美術スタッフとミーティングを重ねながら、展覧会「合目的的不毛論」を開催した。また、神戸アートビレッジセンターにはシルクスクリーンの工房があり、シルクスクリーン技法の奥深さと魅力を紹介する専門冊子「### (メッシュ)」を創刊した。

#### ③映像事業

商業的な大手映画館では上映されないフィルムを上映する KAVC CINEMA の他、テーマを決めた特集上映として、「松本俊夫特集」「『映画の初めて』集めました」「ニッポンの喜劇映画コレクション」を実施した。

#### ④音楽・地域事業

兵庫大開小学校の5年生・6年生とイラストレーター山内庸資が、新開地をテーマに展覧会をつくりあげる「New Open Area」など、地域の子供向けの参加型事業を実施した。また、KAVC ならではの音楽事業として、クラシックに限らない様々なジャンルのミュージシャンが交差する場となるべく、KAVC Music Line “STATION” を立ち上げ、スマートフォンで街の音を採集し、音楽セッションをするワークショップなどを実施した。

### (3) 事業実績

#### 〈事業別〉

	事業数	公演数	入場者数
演劇・舞踊事業	13	67	2,917
美術事業	13	59 (日)	4,221
映像事業	13	551 (上映回数)	5,567
音楽・地域事業	18	74	4,050
合計	57	751	16,755

## 6 神戸アートビレッジセンター（KAVC）貸館・管理事業

### （1）事業方針

- ①柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供
- ②文化の発信拠点として地元芸術団体・若手アーティストを支援
- ③安全・安心な管理運営かつ省エネ設備への積極的な投資

### （2）事業内容

#### ①柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供

小劇場ならではの柔軟な貸館対応、専門性の高いサービスを提供するとともに、早朝の仕込みや閉館後の撤収など利用者の状況に応じた対応に努めた。

また、アンケート等で寄せられた来館者のご意見・ご要望に対し速やかに対応するとともに、スタッフ研修等を通じ、共有化を図った。

#### ②地元芸術家・若手芸術家を支援

若手や学生劇団（サークル）など、発表機会の少ない団体への活動支援として、専門スタッフによる打ち合わせ・相談・アドバイスなどサポートを行った。また、1階のコミュニティスペース 1 room でのチラシ設置や神戸アートビレッジセンターの公式サイト内での公演紹介など広報協力を通じて積極的な支援を行った。

一方で、新開地周辺の地域団体との連携・協働によるイベントの実施、あるいは食堂事業の展開など様々な事業に関わり、地域の活性化に貢献した。

#### ③安全・安心な管理運営かつ省エネ設備への積極的な投資

安全・安心な管理運営では、日常点検、定期点検、法定点検を着実に実施し、設備の不良個所への速やかな対応に努めた。神戸市と連携し、給排水管や空調機器など供用開始後 20 年経過し老朽化した設備の改修、更新を実施するとともに、貸出用の備品等を更新し、利用者の要望に応えた。



## 7 区民センター講座・地域連携事業

### (1) 事業方針

- ①「地域住民と共に歩む区民センター」として市民の文化活動のニーズに対応する。  
※「学ぶ」→「深める」→「発表する」→「鑑賞する」→「学ぶ」及び地域住民同士が「つながる」ニーズ
- ②講座事業や地域連携事業（地域住民参加型やプロの芸術に触れる鑑賞型等のイベント及び地域文化活性化事業）を実施する。
- ③事業運営等への「区民センターサポーター」等の住民参画をすすめる。
- ④当財団が有する文化事業の実施運営ノウハウや、文化団体との人的ネットワークを活用した事業展開を実施する。

### (2) 事業内容

#### ①講座事業

入門者・初心者対象の文化・教養・スポーツ等の講座を、①低廉な料金で、②春季・秋季の「定例講座」と、季節や住民ニーズ等を反映する「随時講座」も交え、③年間を通じて開講した。

新規講座を開設する一方、受講率の低い講座の見直しや講師報酬への歩合制の導入等により収支改善に努め、また、伝統芸能等の伝承等、公益財団法人として取り組む必要のある講座等にも配慮しつつ受講者数の拡大を図った。

#### ②地域連携事業（地域住民参加型のイベント及び地域文化活性化事業）

住民の「発表する」ニーズ及び専門家による芸術文化を「鑑賞する」ニーズに応える地域住民参加型の自主事業（イベント等）、各地域の歴史や伝統文化、個性を生かしつつ、参加や鑑賞等、住民が芸術文化に触れたり、日頃磨いた技を発表したり、お互いに交流する機会となる「地域文化活性化事業」を企画実施した。

各センターの特色を生かし、地元住民・団体との協働による住民参加型行事に取り組むとともに、東灘区民センターでのだんじりの写真展や須磨琴等地域の伝わる伝統文化、地域特色を取り上げた事業を実施した。また、「市民の第九」や「神戸能プレイベント」など、神戸文化ホールとの連携事業の他、地域の保育所等に演奏家が赴くアウトリーチ等地域の文化振興のための各区の中核施設にふさわしい管理運営を行った。

#### ③作品展示会・発表会

区民センターのギャラリーやロビー、ホール及び花時計ギャラリーにおいて、講座受講生をはじめとする市民の絵画、陶芸、写真等の作品展示会や舞踊、音楽等の発表会を実施した。

## 8 区民センター貸館・管理事業

### (1) 事業方針

- ① サービスと利便性の向上、利用促進のための料金割引制度、利用団体への広報・相談サポート提供、積極的な広報活動等を実施する。
- ② 長年培ったノウハウの活用による、安全・安心で快適な利用環境を提供する。

### (2) 事業内容

#### ① サービスと利便性の向上

休館日が祝日にあたる日の開館やインターネット無料接続サービスの提供を継続したほか、全館においてインターネット予約受付を開始した。

#### ② 地域文化団体との連携強化による情報発信や運営サポート支援

地域文化団体の利用料金割引を実施し、地域団体が利用しやすい環境を整えるとともに、館内の掲示板や区民センターだより等活用し、貸館利用団体のイベントの広報に協力した。

#### ③ 積極的な貸館セールス

「区民センターだより」発行、区民センター友の会の運営を継続したほか、近隣のマンション管理組合等への積極的なセールス（ポスティング）などPRを強化した。

#### ④ 省エネルギーや環境を意識した設備管理

日常的な環境保護の取り組みを広く発信するため、印刷物に神戸環境マネジメントシステム（KEMS）ステップ2の認証を掲載するとともに、未利用フロアの消灯や電球のLED化などを進め省エネルギー化に取り組んだ。

## 9 広報事業

文化振興事業の市民への周知、文化芸術への市民参加の機会拡充、財団の収益向上等の観点から、財団の広報体制を確立するとともに、多様な手段により、積極的に広報PRに努めた。

### (1) 文化情報誌の発行

	回数	発行部数	備 考
KOBE C 情報	12	50,000 部 / 月	市内をはじめ周辺地域を含めた文化に関する情報を幅広く掲載。 市内公共施設、文化施設、地下鉄各駅など公共交通機関等で配布（毎月 23 日発行）。
ほーるめいと	6	22,000 部 / 隔月	神戸文化ホールの催し物及び神戸市室内合奏団及び神戸市混声合唱団の公演情報を掲載。 友の会会員をはじめ、市内公共施設、文化施設、主要駅などで配布。（隔月 20 日発行）。

### (2) 神戸アートビレッジセンターからの情報発信

	回数	発行部数	備 考
マンスリーニュース	12	300 部 / 月	KAVC で開催される自主事業、貸館事業 3 か月間のスケジュールをまとめた冊子。 マスコミや関係各所への発送と、KAVC 館内の設置（毎月月末発行）
アートビレッジボイス	1	10,000 部 / 季刊（年 4 回）	KAVC の催し物や、新開地周辺地区の情報掲載した広報誌（年 4 回発行） 会員を始め全国の美術館、劇場、映画館など文化施設への発送 H30 年 3 月にリニューアル号を発行した。

### (3) 区民センターからの情報発信強化

区民センターからの情報発信機能の充実強化を図るため、チラシやホームページでの情報提供のほか、ポスティング、区民センターだよりの発行、固定客・リピーター確保のための友の会運営に取り組んだ。

#### (4) インターネットによる情報発信

財団が主催する主要事業等を幅広く紹介するとともに、神戸文化ホールや神戸アートビレッジセンター、区民センターの空室情報や区民センターの講座受講申込、「K O B E C 情報」の内容をホームページで発信した。

また、第9回神戸国際フルーツコンクールの特設サイトの運営を行ったほか、ツイッターやフェイスブック、インスタグラム等多様なSNSを活用して、リアルタイムの情報発信に積極的に取り組み、ホームページでは紹介しきれない細かな情報発信、「いいね」「リツイート」によるSNSならではの情報拡散などを行い、事業広報に取り組んだ。

ホームページ訪問者数	月平均 209,357 人
Facebook フォロワー数	1,975 人
Twitter フォロワー数	1,643 人

#### (5) 広報・PRの強化

広報PR及び法人等への営業の専門部署である営業企画課を設置した。

財団事業を総合的かつ横断的にプロモーションし、公演の入場者数や入場料収入の増加につなげていくため、ホームページの見直しや分析等を行った。

また、話題性の高いコラボレーション番組の共同制作・放映、ラジオ番組作成、各種資料提供などマスコミを活用した情報発信に積極的に取り組んだ。

## 収益事業

### <収益事業>

#### (1) 神戸文化ホール貸館・管理事業

神戸文化ホールにおいて、コンベンション等文化活動以外を目的とする活動の場の提供を図る。また自動販売機設置や駐車場等神戸文化ホール利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要 大ホール、中ホール、リハーサル室、練習室 1～5、  
多目的室、特別控室

自動販売機 : 7 台

駐車場（神戸文化ホール練習場） : 10 台

【貸館利用件数】 大ホール 合計 298 件 うち収益 82 件  
中ホール 合計 267 件 うち収益 65 件

#### (2) 神戸アートビレッジセンター貸館・管理事業

神戸アートビレッジセンターにおいて、地域の集会等文化活動以外を目的とする活動の場を提供した。また、自動販売機設置による利用者へのサービス向上を図った。

※施設概要 多機能ホール、視聴覚ホール、ギャラリー、リハーサル室 1～2、  
会議室 1～2、スタジオ 1～3、1room 等

自動販売機 : 4 台

【貸館利用件数】 ホール 合計 487 件 うち収益 1 件  
シアター 合計 575 件 うち収益 1 件  
会議室 合計 560 件 うち収益 83 件

#### (3) 区民センター講座・地域連携事業

当財団が指定管理者として管理運営する 7 各区民センターにおいて、美容・スポーツ等の文化振興目的以外で利用者ニーズの高い講座や自主事業を開催した。

※例 講 座：健康体操、スポーツ吹矢、バドミントン、卓球等

自主事業：コミュニティフェスティバル、卓球大会等

【定例講座件数】 合計 1,345 件 うち収益 264 件

【地域連携事業件数】 合計 152 件 うち収益 10 件

#### (4) 区民センター貸館・管理事業

指定管理者である区民センターにおいて、イベント等文化活動以外を目的とする活動の場を提供する。また自動販売機設置や駐車場等区民センター利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要 大ホール、会議室、多目的室、和室・音楽室・美術室・陶芸室、  
体育館等

自動販売機 : 18 台

駐車場（北神区民センター） : 123 台

【貸館利用件数】 合計 45,899 件 うち収益 12,209 件

## 法人管理運営事業（法人運営全体に関わる事業）

### （１）専門性の強化・人材育成

職員の知識向上及やスキルアップを目指し、人材交流を含め当財団内外での研修を充実させるなど、職員一人ひとりの能力・専門性を高め、文化事業を担う団体としての能力向上に努めた。

### （２）効率的な執行体制

当財団が保有する神戸市室内合奏団（平成30年度からは神戸市室内管弦楽団に改名）及び神戸市混声合唱団の更なる活用と事業執行の効率化、また神戸文化ホールや区民センター、神戸アートビレッジセンターの施設管理部門の一元化を目指し、総務部・事業部・管理部の3部体制とした。

また、市民への事業の周知及び収益向上などの観点から、広報・営業体制の強化を図るため、営業企画課を設置した。

### （３）経営基盤の強化

事業における更なる経費の見直しやアウトソーシングによる業務の効率化などを進めるとともに、インリーチ・アウトリーチ事業や神戸国際フルートコンクール事業など公益性の高い事業に対して国等からの外部助成金の積極的な獲得を行った。

### （４）KEMS ステップ2の活動

環境負荷低減を図り、神戸環境マネジメントシステム（KEMS）ステップ2の認証に基づく取り組みを着実に実施した。

### 3 数値目標

#### 【芸術文化の創造・発信】

	29年度目標	29年度実績	28年度実績
創造発信型事業の数	92	113	82

#### 【普及啓発】

	29年度目標	29年度実績	28年度実績
アウトリーチ実施回数	25	64	20

#### 【国際交流事業】

	29年度目標	29年度実績	28年度実績
海外芸術家等による公演回数	15	21	12

#### 【指定管理施設管理事業】

##### 1 神戸文化ホール

		29年度目標	29年度実績	28年度実績
利用率 (踏入率)	大ホール	82%	94.4%	88.6%
	中ホール	88%	94.2%	89.8%
利用率 (実利用率)	大ホール	72%	83.8%	79.8%
	中ホール	76%	85.1%	81.2%
利用者数	大中ホール	52万人	488,854人	503,347人
	練習室含む	58万人	550,614人	563,627人
利用者満足度		95%	95%	95%
友の会 加入数	個人	1,300人	1,193人	1,254人
	法人	10社	-	-

##### 2 神戸アートビレッジセンター

		29年度目標	29年度実績
利用率 (踏入率)	ホール	60.0%	60.5%
	シアター	75.0%	70.3%
	ギャラリー	75.0%	68.6%
利用率 (実利用率)	ホール	60.0%	53.1%
	シアター	75.0%	62.6%
利用者数		178,200人	162,791人
利用者満足度		85.0%	97.6%

※利用者数には自主事業の利用者数も含む

3 区民センター

		29年度目標	29年度実績	28年度実績
利用率 (踏入率)	全体	78%	75.4%	77.1%
	うちホール	72%	73%	75.4%
利用率 (実利用率)	全体	50%	50.5%	52.3%
	うちホール	45%	47%	48.3%
講座受講者数		25,000人	25,300人	25,000人
利用者満足度		95%	95%	95%

【財団管理・経営関係】

	29年度目標	29年度実績	28年度実績
経営目標（年度収支の均衡）	±0	△21,713千円	△50,996千円